

オープン市場短信 (2016年11月)

2016.11.14

◆ 10月のCP市場動向

10月末のCP（短期社債）発行残高は14兆1412億円と、前年同月比で▲6732億円の減額となり、13か月連続して前年実績を下回る結果となった。一方で、例年通り、前月比では+1兆1571億円の増額となった背景に、鉄鋼や卸売業等の一般事業法人の期明け発行の効果があげられる。発行残高の動向として、増額は一般事法で+1兆4064億円、その他金融で+2362億円であった。一方、減額は金融機関で▲2701億円、ABC Pで▲2154億円であった。

発行レートの変動は、投資家の運用ニーズが引き続き強く、期間や銘柄を問わず0%近辺の出合いが中心であった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0%近辺。一般事業法人（a-1格）0%近辺～0.004%近辺。その他金融銘柄（a-1格）0%近辺～0.047%。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	10月末残高	9月末残高	増 減
一般事法	41,835	27,771	14,064
その他金融	67,464	65,102	2,362
金融機関	18,363	21,064	-2,701
政府系金融	0	0	0
銀行等	11,950	12,050	-100
証券	6,413	9,014	-2,601
ABC P	13,750	15,904	-2,154
計	141,412	129,841	11,571

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

10月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	▲ ~ 0.0000%	▲ ~ 0.0000%	— ~ —
a-1 (一般事法)	▲ ~ 0.0700%	▲ ~ 0.0027%	▲ ~ 0.0039%
a-1+(リース銘柄)	0.0000% ~ —	0.0000% ~ 0.0000%	0.0000% ~ 0.0000%
a-1 (リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0005%	0.0001% ~ 0.0015%	▲ ~ 0.0470%
a-2	0.0001% ~ ケ0.10%	— ~ ケ0.10%	0.0008% ~ ケ0.10%

《CPオペ》

10月のCP等買入オペは予定通り、各回3500億円にてオファーされ、合計1兆500億円であった。前月対比では、▲5000億円の減額（9月は合計1兆5500億円）となった。オペの応札金額は回を追うごとに減少したものの、ディーラーの売却ニーズは強く、按分レートは前月から上昇し各回ともに▲0.001%となった。

【月末オペ残高：2兆1482億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月5日	10月11日	3,500	9,474	3,489	-0.001%	-0.001%	75.2%
10月19日	10月24日	3,500	7,215	3,496	-0.001%	0.000%	44.9%
10月26日	10月31日	3,500	6,171	3,480	-0.001%	-0.001%	86.4%

《ABCP》

ABCPの月末残は1兆3750億円で前月比▲2154億円の減額となり、前年同月比では、▲1133億円の減額となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、10月末時点における発行登録企業数は変わらず横這いの521社。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP償還額は約1兆7100億円で、前年同月の償還額（約2兆3200億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABCP）。

今月の発行動向として、中旬以降に賞与資金手当て等から発行増加となろう。上記にともない、月末の発行残高は、事業法人は一時的に発行が増加するも、金融機関は依然として低調な発行であり、14兆円台後半の推移を予測する。

発行レートは、投資家の運用ニーズの旺盛さからも、0%近辺での出会いを予想する。

《CPオペ》

日銀発表（1日）の11月のCP等買入オペのオファー額が、従来発表分よりも1000億円程度の減額となった。また、12月分は前年と比べると、2000億円程度

の減額となった。この背景には、CP等買入オペの残高（約2.2兆円）を維持しやすい状況にあるためと思われる。今月は、8日・15日が各々3000億円程度、25日が3500億円程度と、合計約9500億円の予定となった。

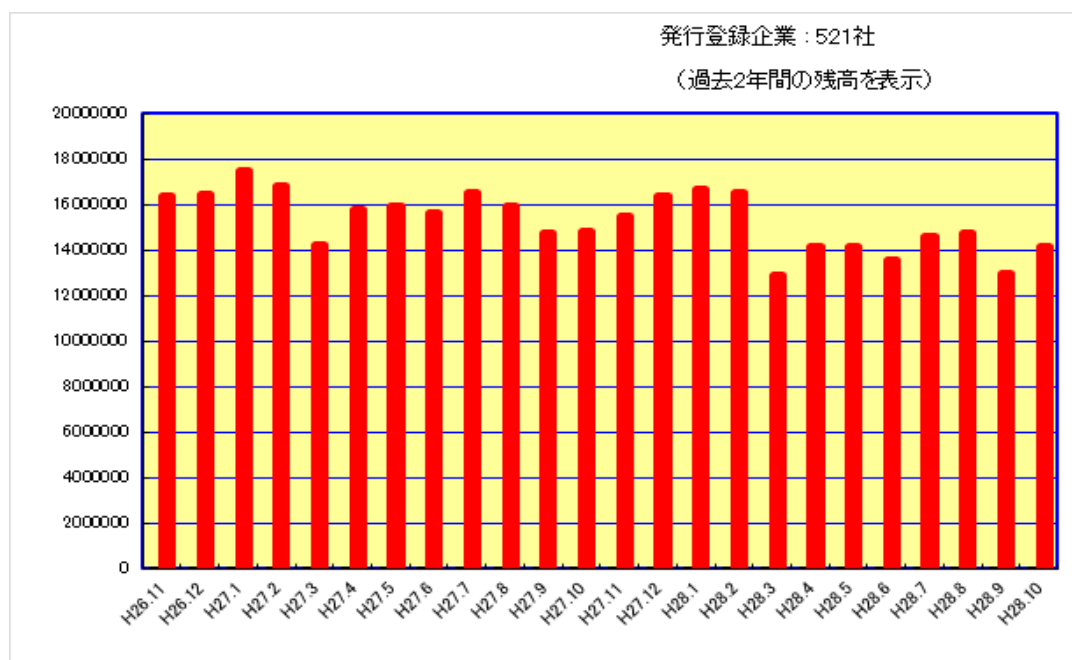
8日のオペは前回から500億円の減額となったが、按分・平均落札レート共に▲0.001%と落ち着いた結果となった。15日以降のオペレートも、適格銘柄の発行増等の需給によるがほぼ横這い推移を予想する。

《CP現先市場》

CP現先レートは、投資家のプラス圏内での運用ニーズは変わらず、先月同様0%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（26年11月～28年10月）



10月末発行残高ベスト10

10月末発行残高上位10社

(単位:百万円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	885,300	861,700
2	三菱UFJリース	741,100	771,800
3	東京センチュリーリース	575,600	600,700
4	三菱UFJ信託	534,000	534,000
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	474,360	508,100
7	JXホールディングス	380,000	296,000
8	三菱重工業	372,000	222,000
9	JA三井リース	370,000	364,000
10	興銀リース	359,900	355,400

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会